

京都に原爆を投下せよ

吉田守男



吉田守男

ウォーナー伝説の真実

京都に原爆を投下せよ



655333460

角川書店

L210.7

3店

団のB 29一二二機は米軍資料によればE 46集束焼夷弾を三、九一六発、つまり、七八三トン投下した。このうち、横浜市街地に投下されたのは七二一トンであり、一一トンは別の目標に投下され、四五トンは棄てられたというのである〔『横浜の空襲と戦災』4〕。

図の中の*印を付した爆撃のすべてが計画的な爆撃とは限らないが、*印を付した爆撃の中に、計画的な爆撃がふくまれているのである。

さて、この図に関して、すでに次の点が明らかである。

広島・小倉・新潟においては、投下目標の期間中、一度も空襲をうけていない。

京都に関して、点線で示した期間は、原爆投下目標から除外されたにもかかわらずへ爆撃禁止命令∨の下にある時期（後述）のことである。この期間にあった六月二六日の西陣出水^{でみず}に対する爆撃は、B 29一機が一トン爆弾七発を投下したものだが、これは当日の名古屋地方への爆撃の付随的爆撃であると考えられる。

横浜について、米軍公刊戦史は次のように記している。

横浜は、いままで（五月二八日まで）さまざまの爆撃のさいにはみだし爆撃をうけ、とくに四月一五日の東京空襲では被害をこうむったが、いまだかつて第一目標として名ざされたことはなかった。

[The Army Air Forces in WW II, ⑤]

図では頻繁に爆撃されているように見えるが、五月二八日までの爆撃はすべて「はみだし爆撃」、つまり付随的投棄的爆撃であつたといふのである。

そして、投下目標期間中の三回の爆撃についても、五月一七日の爆撃は立川飛行場への爆撃の付随的・投棄的爆撃であり、また、五月二四日と二五、二六日の爆撃は東京空襲の「はみ出し爆撃」であつたことがすでに判明している。

長崎については五回ともに計画的爆撃である。ところが、投下目標期間中に行われた三回の爆撃はいずれも、三菱造船所や川南造船所に対する精密爆撃であり、したがって、焼夷弾は一発も投下されていない。つまり、軍需工場に対する限定的な爆撃だったのであり、原爆攻撃に抵触するような市街地を焼き払う爆撃ではなかつたのである。そのため、先に見たように建物被害率も軽微であつた。

以上検証してきたことから、次のことが判明した。

広島・小倉・新潟・横浜・京都について、原爆投下目標の期間中、計画的な爆撃を一度もこうむることはなかつた。目標期間中に爆撃をうけた長崎についても、原爆攻撃に抵触しない程度の限定的な爆撃であつた。つまり、〈爆撃禁止命令〉はほぼ完全に守られていたのである。

次に、京都にも大規模な空襲の可能性があつたことについてふれておこう。

京都の空襲に関して、米軍公刊戦史は次のように記している。

京都は、三回の小爆撃を受けたが、これらは全て故意の爆撃ではなかった。

しかしこの記述は誤りである。少なくとも、一九四五（昭和二〇）年一月一六日の京都市東山区馬町の空襲に関するかぎり、B 29一機の来襲とはいえ、計画的な爆撃だと考えざるをえないからである。

松原警察署の調べによれば、この日の午後一時二三分ごろ、B 29一機が三重県境より滋賀県を経て京都市内に侵入し、京都市上空を一周した後、投弾した。

この結果、死者四一人、負傷者四八人、被害家屋三一六の災害をこうむった。「かくされていた空襲」。他の都市の空襲と比べればきわめて軽微なものではあるが、六月二六日の西陣出水地域の空襲とともに、数少ない京都空襲の一つである。

当時、東山中学校の校長であった須賀隆賢はこの模様を日記に記している。

●昭和二〇年一月一六日（火）晴 寒

登校、授業。午後三時近く下校。五時近く帰宅。^(ママ)十四日、敵機伊勢外宮豊受^{とゆけ}大神聖域へ爆弾投じ、神楽殿、神舎など六、七棟被害。ご本殿安泰。いよいよ思想戦となった。国体概念にひびを入れ、神国への自信を破壊しようと不逞暴虐の挙に出たのだ。万邦無比、国体の破

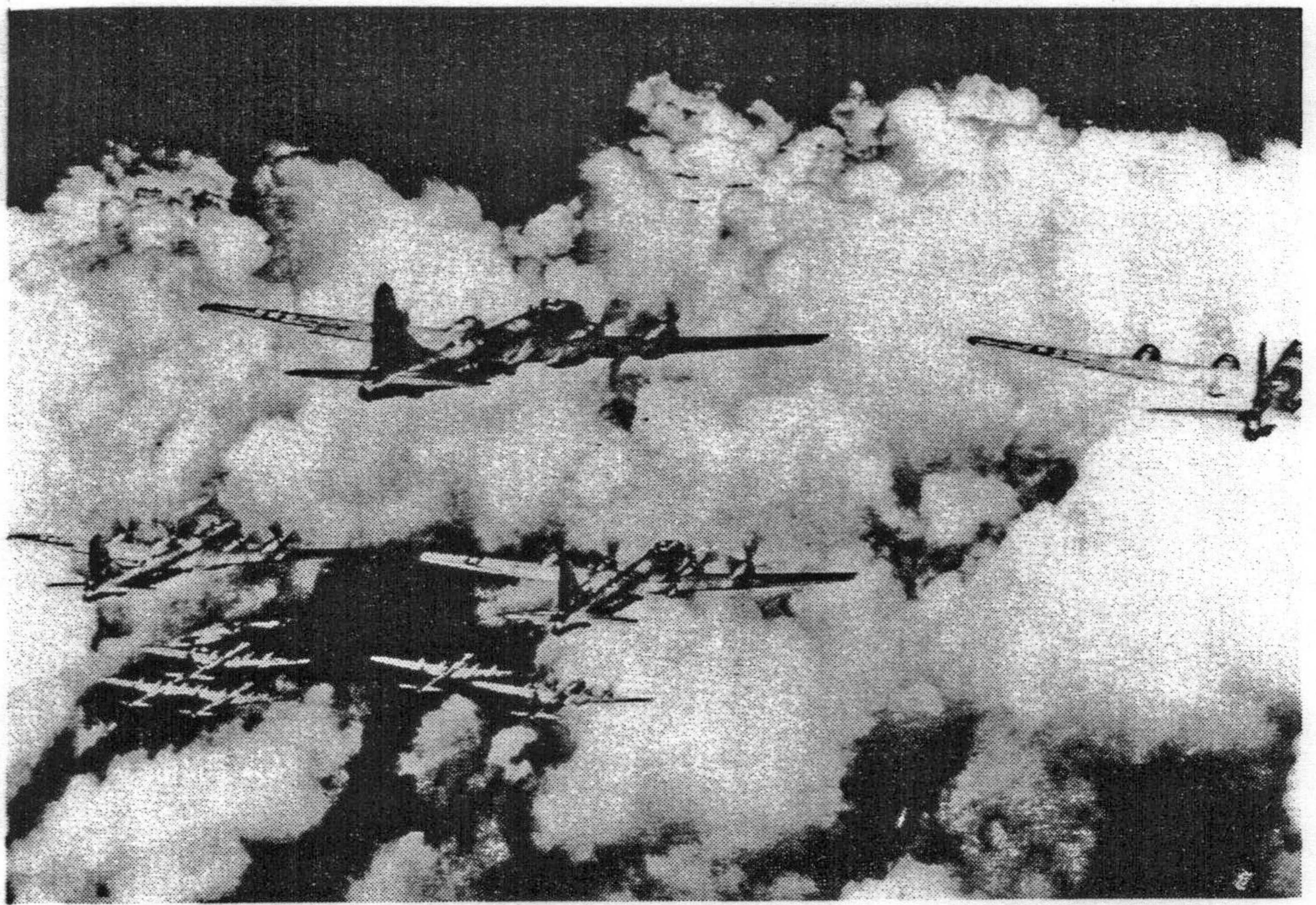
却をめぐらしていることは明白だ。

一六日夜分一一時半ごろ、突然、ブルブルンと異常な飛行機のうなりが聞こえる。これが地ひびきをたてて、旋回しているらしい。これは敵機、はて、警報も出ていないが。とびおきて空を見る。星がふっている。ところが、ドカンドカン。ブルブルブルとガラス戸が大震動。これはないと思ひ表へ出たが、もう何事もなく静まりかえって別条はないがなと入って寝たところへ、警報が出た。一機、三重から脱去……。

● 一月一七日

今朝学校へ行くと、東山学区内爆弾投下、被害とのよし。渋谷道だとのこと。そのうちに四年本江源一が傷害、二年井上孝哉が重傷との報。いよいよ大変と、午後石井、貫井と三人見舞、視察。防空用員章がものをいって入った。女専第一小松寮の一つがやられている。幼稚園がひどい。柴垣妙子は第三寮で無事。井上と本江の家のまん前にドカンと落ちた。近所はこつぱみじん。目もあてられぬ。ちようど本江の兄のかたが元気で、あと片づけ中。ばあさんレキが重傷で府立病院。女の子（七つ）即死。井上は父負傷、母重傷。本人は、頭と左足の骨が折れた。妹が腹部貫通で即死。その間に寝ていた小さな妹は微傷もないと。その辺一帯家屋倒壊。少し東、火災で焼けている。北側は爆風で戸、障子めちやめちや。ガラス惨憺、各教室惨憺たるもの。死者も三、四〇はあろう。傷者は数倍か。京都最初の空爆である。これで市民も覚醒するだろう。この夜は暗かった。

〔前掲『かくされていった空襲』〕



B29の編隊 共同通信社提供

同じく、この日の空襲を体験した山崎昭見は次のように言う。

京都はいつもその上空をB29の大編隊が通過するのを見上げるのみで今日は京都か、今日は京都かと、空襲警報がなるたびに、ひやひやしながらついに敗戦を迎えることになった。

〔同右〕

たしかに、京都は名古屋地方が爆撃される際の飛行コースに入っていたから、上空をB29の編隊が通過することは多かったのである。ところが、この日のB29の行動は、京都幼稚園の花一枝によれば、「いつもと違う飛行機の飛びかたに不安を感じ」た。それは低空を旋回していたからだという〔同右〕。

米軍史料「攻撃デー」^{*}は、この日の京都への爆撃に関して次のように記録している。つまり、一月一六日、B 29一機は第一優先順位で爆撃を加えた。高度二万三、八〇〇フィート（七、二五四メートル）から高性能爆弾二トンを投下したと。

* USSBS, Statistical Reports Covering Allied and U. S. Air Forces Attack Data, 1945-1946.

このB 29の爆撃について問題点が三つある。

その第一は、B 29の所属部隊が「8888」となっていることである。こんな番号で表示される航空団は存在しない。これは伏せ字なのである。「攻撃デー」の所属部隊欄は普通、五八Wとか三一四Wとなっている。前者は第五八航空団、後者は第三一四航空団のことであり、ともにグアムに司令部を置く第二〇航空部隊の指揮下にあつた飛行団であつた。マリアナ諸島に基地を持つ飛行団に第八八八航空団などは存在しないのである。

そこでここでは、謎の「8888」のことを「エイト・フォー」と呼んでおこう。テレビのコマーシャルでおなじみの女性用商品のほうは脇の下のおい消しのようだが、ここでの「エイト・フォー」は所属部隊消し（隠し）なのである。

米軍史料「攻撃データ」に掲載された膨大なB 29の出撃データの中に、この「エイト・フォー」が約三〇〇回ほど出てくる。そのうちの五〇回は正体が判明している。それは第五〇九混成群団、つまり原爆投下専門部隊である。これは、原爆投下の練習を日本本土で五〇回にわたって実施した飛行の件である（後述）。また、広島・長崎へ原爆投下に出撃したB 29もこの「エイ

ト・フォー”と表示されている。これらは原爆問題は極秘事項だから、その所属部隊を隠したの
である。それでは残りの二五〇回の“エイト・フォー”の正体は何であろうか。

この件については現在、次の点が判明している。

① それら約二五〇回の“エイト・フォー”は、B 29の単機飛来が圧倒的に多いこと。複数の
場合でもせいぜい二、三機での来襲である。

② B 29は通常七トンの爆弾を積み込んで来襲するのだが、“エイト・フォー”のB 29はせい
ぜい三トン程度しか積んでいないこと。

③ 攻撃は必ず第一優先順位の目標をねらっている。

④ 時期は一月から五月に集中している。

以上が、謎の“エイト・フォー”に関する手がかりである。

B 29が単機で飛来して上空を旋回したり、数発の爆弾を投下するなど奇妙な行動をとった時、
当時の日本人はこれを「地獄の使者」とか「悪魔の使い」と呼んで恐れていた。“エイト・フォ
ー”の行動は「地獄の使者」「悪魔の使い」と似ているのである。

太平洋戦争中、「帝都防衛」の任務をおびて陸軍飛行第五三戦隊（B 29邀撃夜間戦闘隊ようげき）の松
戸基地において、来る日も来る日もB 29の行動を観察して文庫本の余白に記録していた男がいた。
原田良次である。原田のこの記録日記には、一九四五（昭和二〇）年二月二日と三月八日の項に
次の記述が見える。

二月二日 雪 二〇〇〇(二〇時〇〇分)ごろ関東西部にB29一機来襲、警急隊四機出動。
……この来襲一機は気象観測機ならん、これは「地獄の使者」なり。近くまたはげしい敵来襲が予想される。……二〇〇〇(二〇時〇〇分) B29一機は東京上空に在り、照空灯の光芒
急ぎ空をまさぐり、高射砲の迎撃音しきりなり。
三月八日 快晴 一〇〇〇(二〇時〇〇分)ごろ三回、B29一機で静岡より東京へ、偵察来襲。しかしこれは一機でも悪魔の使いだ。近くまた大編隊の来襲があるだろう。

〔原田良次『日本大空襲』上〕

ここで言う「地獄の使者」「悪魔の使い」とは、都市上空を二、三回旋回して航空写真を撮影したり、気象観測をすること、また、高射砲陣地の位置や角度など日本側の反撃力を試すために二、三発投弾したりするB29のことであった。これらはいずれも単機か、せいぜい二、三機で行動した。したがって、B29によるこれらの偵察行動は、やがて到来する大空襲の前ぶれとして、当時の日本人に恐れられていたのである。

一月一六日の京都へのB29単機飛来がこの「悪魔の使い」に当たるかどうか、即断はできない。人心を攪乱するための夜間攻撃であった可能性もある。もし、「悪魔の使い」であったとすれば、それは大空襲の前ぶれであったと言えるのである。

京都にも大空襲が近づきつつあった、より直接的な証拠は次の点にある。

投下目標期間と空襲に関する先の図の横浜の欄に注目していただきたい。

横浜が原爆投下目標から除外されたのは五月二八日の目標選定委員会であった。そして間髪を入れず、その翌日に爆撃されている。この五月二九日の爆撃こそ「横浜大空襲」と呼ばれるものであり、ただ一回のこの爆撃によって、旧横浜市全域がほぼ焼失させられたのである。

この日、B 29 五一七機、P 51 一〇一機が横浜に襲来し、午前九時一五分から一〇時五〇分まで、二、五七〇トンもの爆弾を投下した。この結果、全焼した家屋は約三万戸、死者は三、七八七人を数えたのである。

この横浜の例は、原爆投下目標と通常空襲との関係をよく示している。それは、原爆目標とされている限り、通常空襲をこうむることはないが、いったん目標から除外され「爆撃禁止命令」が解除されるや、たちまちにして大規模な空襲にみまわれるという現実である。

実際、京都にも大空襲の可能性があったことは次の事実からも明らかである。

第一回目の目標選定委員会が開かれた四月二七日、委員会のメンバーは投下目標の都市を選び出すにあたって、通常空襲が現在どの程度まで進行しているかを確認した。なぜなら、まだ爆撃されていない都市の中から原爆投下目標を選ぶ必要があったからである。この時、フィッシャー大佐は、日本本土への爆撃の現段階について、次のように説明している。

第二〇航空軍は、邪魔な石は残らず取り除くという第一の目的をもって次の都市を系統的に爆撃しつつある。

東京、横浜、名古屋、大阪、京都、神戸、八幡、長崎
〔MED・TS 傍点は引用者〕

四月二七日という時点は、先の爆撃の時期区分では第二期に入っており、すでに精密爆撃からジェノサイド爆撃への戦術転換が完了していた。三月一〇日と四月一四日には東京が、三月一二日と一九日には名古屋が、三月一四日には大阪が、三月一七日には神戸が大空襲にみまわられていた。

ところが、四月中旬から五月中旬までの一か月間、これら大都市へのジェノサイド爆撃が中断するのである。これは、四月一日に開始された沖縄上陸作戦を戦術的に支援するため、マリアナ諸島のB29部隊がこの時期、九州と四国の飛行場を重点的に爆撃する任務にまわされたためであった。したがって、もし四月二七日に報告されている計画どおりに爆撃が遂行されたとすれば、五月一四日に再開された大都市への爆撃によって、京都は間違いなく焼きつくされていたはずである。ところが、沖縄上陸作戦の支援という任務が解かれてB29部隊がジェノサイド爆撃を再開した時（五月一四日）、京都はすでに原爆投下目標にリスト・アップされ、それゆえに通常爆撃が禁止されていたのである。

これらの事態の推移から次のことが明らかになる。京都は大空襲に直面しつつあった。ところ